

医療の役割再認識

看護の日
イベント

「目標を明確にし前進」

八学大看護学科宣誓式

八戸学院大(法官新一人)が教員からともしび(学長)健康医療学部看護を受け取り、全員で「宣誓学科は「看護の日」の12誓の詞」を斉唱。法官学日、同大の学生会館で宣誓式を行った。1年間の基礎教育を終え、より専門性の高い技術の習得を目指す2年生63人が、看護の道を歩み続ける決意を新たに、それぞれの理想の看護職像を胸に刻み込んだ。

同学科は、系列の八戸学院短期大(現八戸学院大短期大学部)から移設する形で2016年度に開設した。式典では、宣誓者一人一人が、宣誓者一人一人が教員からともしびを受け取り、全員で「宣誓の詞」を斉唱。法官学長が「医療の進歩に役立つ研究心を身に付けてほしい」と式辞を述べ、3年の上村陽花さん(20)が実習経験を踏まえて「実習では講義や演習とは違った学びがある。将来の目標を明確にし、前に進み続けましょう」とエールを送った。



教員からともしびを受け取り看護の道への決意を胸に刻む学生ら

宣誓者代表の吉田澄玲さん(19)は「支えてくれる人への感謝の気持ちを忘れず、仲間と切磋琢磨し、質の高い看護を目指したい」と誓った。式典後、北海道医療大と長野県看護大の名誉教授を務める阿保順子さんが「看護技術と身体」と題して記念講演を行った。

(三浦千尋)